8　周囲の子どもの理解に向けて

こんなクラス集団だといいな・・・

教師の仕事の大きな柱に、分かる授業づくりと学級集団づくりがあります。安定した学級集団では、学習意欲も高まり、子どもたち一人ひとりのよさが十分に発揮できます。

どの子どももクラスの一員であるという帰属意識がもてることが大切です。得意なことや苦手なことは、誰にもあることです。得意なことや頑張ったことを、お互いに認め合える雰囲気づくりが大切です。苦手なことにチャレンジしたときに失敗しても、笑われたり、からかわれたりしない安心感が、「やってみよう」という意欲につながります。

お互いの個性を認め合い、困ったときに助けて欲しいと言える集団は、誰にとっても安心していられる集団です。安心できる集団づくりのキーパーソンは担任を含めた教職員です。大人の考え方ややり方が子どもたちのモデルになっています。

確かめてみよう！

★自閉症の特性を知っている・・・・・・・・・・・・・ □

★どの子どもにも、役割がある・・・・・・・・・・・・ □

★間違いや失敗を認め合える雰囲気がある・・・・・・ □

★居心地のよいグループ作りができている・・・・・・ □

★自己肯定感を高める働きかけをしている・・・・・・ □

★どの子どもにも１日のうち一回は声をかけている・・ □

（１）基本的な考え方～教職員の理解～

自閉症の特性を有する児童生徒を周囲の児童生徒が正しく理解し、適切な関わりができるためには、教職員の関わり方がモデルとなります。そのためには、教職員一人ひとりが正しく自閉症の特性を理解し、適切な指導・支援ができるように継続した研修の場やケース会議を設定するなど、学校組織として特別支援教育に取り組むことが必要です。

また、具体的に個人の実態や関わり方について話をする場合には、該当の児童生徒の保護者や本人と事前の話し合いを重ね、了解を得ることが大切です。「よかれ」との思いこみには気を付けましょう！

☆校内研修の充実	☆特別支援教育のための教職員研修への参加
～特性の理解、配慮、支援策等についての研修～ ・既存の資料の活用 「A Chance To Change」 「～見つめ　気づき　変わる～」 「実践・指導事例集」 「自閉症理解パンフレット（手引きⅠ）」 ・事例検討会 ・センター的機能の活用 ・地域療育センター等によるコンサルテーション	毎年、教育委員会主催の研修講座が多数開催されています。発達障害だけでなく、多様化する障害に対応できるような内容になっています。ＹＹnet の研修受講システムから受講申込みができます。

（２）学年・学級集団への指導　～交流学習を中心に～

①特別支援学校や個別支援学級の担任からの発信

○交流に向けて

「○○は苦手だけど、▲▲は得意です。」

「特別支援学校では、こんな勉強や活動をしているよ。」

「個別支援学級では、こんな勉強や活動をしているよ。」

○一般的なことについて

絵本、パンフレット、TV 番組　等を使って

・「障害」って聞いたことありますか？

・「自閉症」って聞いたことありますか？

・見える障害と見えない障害

・福祉教育

・擬似体験　等

②外部からの発信

○出前授業

親の会　　地域の福祉団体　等

③一般学級（交流級）担任からの発信

○道徳

○教科学習の中で

○日常生活の中で

こんな時どうする？

解決策を考えよう

○保護者に向けた発信

（３）学級づくりのヒント　～「だれもが」「安心して」「豊かに」～

クラスの中でほかの子どもたちがどのように受け入れるかによって、教室の雰囲気はまったく違ってきます。

「迷惑をかける子」という目で見られると、クラスの雰囲気が悪くなり、みんながストレスを抱えてしまいます。そうならないためにも・・・

○不公平感のない学級経営を～みんなが共感できるような伝え方で～

・だれでも得意なことと苦手なことがあり、それがその人らしさになっています。
・「おたがいさま」の気持ちで、苦手なことをカバーし合っています。
・みんな「できるようになりたい」と、がんばっています。

○だれもが成長するクラスに

・目の前で困っている友達がいたら助ける。自分が困っている時にも助けてもらえる…それが当たり前になっているクラス、そういう中でだれもが成長できることを目指しましょう。
・間違っても、失敗しても、つまずいても、誰も笑ったり、からかったり、責めたりしないという「安心感」が「もう一度やってみよう」という意欲を喚起します。

○自尊感情、自己肯定感を育てましょう

・自閉症の子どもたちは、うまくいかなかった、最後までできなかったという体験が多くなりがちです。そのため自信を失い、自己評価が低くなってしまうことがあります。
・できないことはすぐ見つけるのに、できたことには気付かなかったということはありませんか？できたという「結果」だけでなく「努力している姿」を認めて、ほめていきましょう。
・ほめるときは「みんなの前で」注意するときは「ひとりで」

○居場所、出番作り

・様々な場で、様々な視点で子どもを見ていきましょう。すべての教職員の目で見ると、その分、観察ポイントが増えます。その子の「いいところ」を見つけて、みんなに伝えていきましょう。
・だれもがスポットライトを浴びる場面を意図的に設定していきましょう。

○対人関係に課題のある子は、周囲の子どもたちに大きな影響を受けます。

・グループ作りでは、刺激し合わないような配慮が必要です。
・行動のモデルになってくれる友達がいると分かりやすいです。
・そっと教えてくれる友達がいると安心できます。
・子どもたちは、先生の対応をモデルにして真似をします。
・座席やグループが固定化しないように配慮しましょう。

○周囲の子どもたちが我慢していることはないか、ストレスをためていないか、不満をもっていないか等を把握しておくことが必要です。

・誰もが大切にされているという実感がもてるようにしましょう。
・周囲の子どもたちの様子に気を配りましょう。
・「先生は、ちゃんと見ていますよ」というサインを送りましょう。
・気持ちを解放する場面をつくりましょう。

○保護者も巻き込んで～クラスの応援団作り～

・保護者の理解が深まるように、子どもたち一人ひとりを一生懸命支援しようとしていること、保護者の協力が学級経営の支えになるということを伝えていきましょう。

授業づくりチェック表

国立特別支援教育総合研究所　「小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究」（2010）笹森　一部改変

	子どもに**あ**わせる			分かりやすく**つ**たえる			子どもを**み**とめる		
Ⅰ 学級経営	1	全体指導では一貫した対応をする		1	困っている時の対応の仕方を伝える		1	子ども同士のかかわり重視する	
	2	子どもの状態に応じた対応を工夫する		2	学級のルールをわかりやすく伝える		2	子どもの行動の意味を考える	
				3	学習準備についてきちんと伝える		3	問題解決しやすい雰囲気をつくる	
Ⅱ 授業の構成	3	達成可能な目標やねらいを設定する		4	目標やねらいを分かりやすく伝える		4	子どもが取り組みたいと思う活動を行う	
	4	子どもにより課題の難易度を変える		5	子どもに学習の流れを伝える		5	子ども同士が良さを認め合う機会をつくる	
	5	子どもにあわせて授業の構成を工夫する		6	理解できているか授業中に確認をする		6	良いことはその場ですぐにほめる	
				7	解答を導くための手がかりを与える		7	課題に取り組み続けるように励ます	
				8	学習内容をふりかえる機会を設定する		8	個々の子どもの特性を認める	
Ⅲ 教材・教具	6	視聴覚機器や教材を積極的に活用する		9	教具等の使い方を分かりやすく示す		9	好奇心ややる気をそそる教材を作成する	
	7	子どもにあわせた多様な教材を用意する		10	子どもが扱いやすい教材を工夫する		10	認めやすい、ほめやすい教材を工夫する。	
Ⅳ 教室環境	8	学習環境（刺激）を調整する		11	掲示物を整理して情報のみを伝える		11	成就感を感じられる展示を工夫する	
	9	座席配置等を配慮する							
Ⅴ 学習形態	10	子どもの特性を踏まえて役割を決める		12	グループ学習のねらいをわかりやすく示す		12	認め合える学習形態を工夫する	
	11	グループ編成に留意する		13	各自の役割をわかりやすく示す		13	子ども同士の認め合う発言をほめる	
	12	ＴＴ等では教師間の連携を十分に図る							
	13	多様な教育形態を工夫する							
Ⅵ 指示・教示	14	作業や課題は達成可能な量にする		14	適切な声量で、間をとり、ゆっくり話す		14	子どもの話を適切なことばで補う	
	15	子どもの実態に応じた指示や話し方をする		15	簡潔で分かりやすい言葉づかいで伝える		15	好奇心ややる気をそそる発問を工夫する	
Ⅶ 板書・ノートプリント	16	文字の大きさ、文字量に配慮する		16	板書の書式を決めている		16	必要なことを書けていることをほめる	
	17	板書のレイアウトを工夫する		17	ノートをとる箇所をはっきりさせる		17	最後まで取り組めたことを認める	
	18	板書の時間はできるだけ短くする		18	指示内容も必要に応じて板書する		18	黒板への注目をほめる	
	19	ノートをとる時間を十分に確保する		19	書く内容との書き方を具体的に伝える		19	書き終えた時に必ずほめる	
	20	プリントは見やすいレイアウトにする		20	ノートの取り方を指導する		20	いろいろな評価を用意する	